

関東教区内の教会の被災を覚え、お祈りください パート②

統括主任 飯塚拓也

【伊勢崎教会】

伊勢崎教会の現在の会堂は、1938年に設計されたものです。歴史のある建物で、地域の方々にも親しまれ、愛されているチャペルです。地域の方々が会堂をとっても愛しておられ、修復しての補修を願って、そのために献金を寄せてくださったとのこと。

地震によって会堂内部の漆喰の壁が落ちました。そして、屋根の重さによって、会堂の柱が外側に押し出されたために、壁が外側に傾く状態となりました。このため、礼拝等の教会活動は、別館の教育館で守っておられます。

「修復委員会」を立ち上げて、取り壊しではなく、会堂を保存する方向での検討を始められるそうです。その際には、「建物の機能性」にも可能な限り取り組みたいとのこと。いずれにしても、大規模な改修となると思われます。

「今回の震災を通して、教会にとっても教会員にとっても、神さまへの信仰がさらに増し加えられることとなってほしい」と福士卓司牧師はおっしゃっておられます。

【桐生東部教会】

桐生東部教会の会堂は、築36年の鉄筋造4階建てで、1階駐車スペース・2階礼拝堂・3階ホール・4階牧師館です。そして、1999年に鉄骨造4階建てのエレベーターと集会室を増築しました。

桐生では震度6弱を記録した揺れによって、この二つの建物がぶつかり合い、こすれ合いました。二つの建物には5cmの隙間が設計されていましたが、今回の地震はその想定を上回り、建物の上部に向かってこの隙間が狭まり、ついにはくっついている状態です。

この建物の被害のほかに、駐車場の地番沈下が見られ、さらにエレベーターの点検によって部品が壊れていることがわかりました。また、築36年ですから、劣化は当然のことながらあるわけで、排水管等にも揺れの影響が出ています。すべてを直すとなると700～800万円は必要になるのではと思われませんが、どこまで・どのように直すのかを検討中とのこと。

「役員会を中心に、教会懇談会を開催して、教会全体の祈りの一致する中での補修工事を目指していきたい」と小野團三牧師はおっしゃっておられます。

【宇都宮上町教会】

早急に着手しなくてはならない被害は、内壁外壁の補修を中心に約625万円に上るそうです。すでに1部を着手し、今後、建築資材がそろい次第着手することとなります。

また、教会としては、近い将来に会堂建築を願っていたということもあります。丁寧な話し意を経て、教会全体が一致して取り組むことができるようにと歩んでおられました。

地震で大きなダメージを受けた建物は、余震の度に亀裂が広がり、不安な思いで過ごさざるを得なくなっています。また、現在の会堂は幼稚園舎の二階部分にあり、礼拝に集う方々は階段を上らなくてはなりません。「安全な会堂で安心して礼拝できることと、バリアフリーのために道路から直接会堂に入ることのできる平屋の会堂があれば」と澤田武牧師はおっしゃっておられます。

このため、教会の今後を考えると、この機会に新たに会堂を建てるといった根本的な検討が必

要となっています。教会全体の祈りが、一致した教会の歩みを生み出しますように。

思いを一つにするためには、多大のエネルギーが必要です。でも、そこに教會的な意味があるのではないのでしょうか。教会の一致のために、関東教区内の祈りを集中しましょう！

【その他の被害について】

今後順次お伝えしていきたいと思っておりますが、この機会に、現在把握できている被害を一覧形式で報告させていただきます。

(栃木地区)

- ・西那須野教会：会堂外壁内壁に亀裂が多数あり、母子室天井がはがれ落ちました。また、パイプオルガンが動き、パイプが多数外れ落ちました。会堂の補修が終わり、約 100 万円だったとのこと。パイプオルガンの修理も終わり、牧師館の補修に着手しておられます。
- ・四條町教会：木造の歴史ある会堂ですが、構造体がしっかりしており、外壁内壁のひび割れ、特に内壁の漆喰のひび割れが多数起きているにとどまっています。木造ボルトゆるみがみられるので、ボルトを締め直す。むしろ、隣接の清愛幼稚園舎に課題があります。木造の平屋の上に、鉄骨で 2 階を建てていることから、園舎 1 階の天井が落ちそうになっているそうです。応急処置をし、精密診断をした後に、補修計画を立てることとなるでしょう。
- ・益子教会：大谷石を積み重ねた会堂で、会堂南側壁の大谷石が一部ずれています。また、会堂入口にある塔の根本が割れ、内壁漆喰の割れ、はがれがあります。余震によって傾きも起きていますので、早急な対応が必要です。
- ・西那須野幼稚園：古い園舎棟に被害が出ました。補修が済むまでは使用しない方がよいほどのことです。耐震診断を含めた改修が必要です。
- ・アジア学院：敷地内に一定方向に地割れ・陥没が多数みられます。建物は、本館とコイノニア館が使用不能な危険な状態です。職員住宅、女子寮、男子寮も、精密調査の必要があります。松下設計士によると、今年度やっておくべきことが 4 億ぐらい。工期としては、夏（今年度の学生が帰る時）までが第 1 段階、今年度末までが第 2 段階。しかし、それだけで十分というわけではなく次の段階があり、それも含めると 7 億が予想されるとのことです。

(茨城地区)

- ・水戸教会：土地の地盤沈下や液状化現象が一部にみられ、インターロッキングに凹凸があります。建物は新しい会堂・保育園舎ですが、コンクリート外壁・内壁に相当数のひび割れや給食室の床面のひび割れと、下水配管は要調査です。一階園ホール床面の一部盛り上がりも気になるところです。補修全体で、約 1,000 万円とのこと。
- ・水戸自由ヶ丘教会：屋根瓦にはがれやずれがあるので直さなければならない。ブロック塀は、危険箇所は撤去しました。老朽化もあって、会堂の天井が波打ち、内壁には亀裂がみられます（牧師館も同様です）。
- ・水海道教会：田んぼだったところを埋め立てているため、土地の陥没・沈下がみられます。会堂車いす用のスロープが割れ、会堂玄関ドアの床が落ち金物が露出しています。内壁の亀裂も大きく、女子トイレの壁タイルが割れ、落下の危険があります。牧師館内壁にも亀裂があります。隣接の幼稚園の敷地周囲にある万年壁は作り直す必要があり、幼稚園ホールも天井の落下の危険性があります。
- ・鹿島教会：土地に地割れ。また、隣家ブロックがグラグラしている状態で、倒れてくる危険があるため、対応をしました。建物は、ちょうど、耐震診断を受け耐震補強計画を立て、業者決定と着工をするところでした。その際に、追加工事として補修工事も行います。道路をはさんだ、

教育館（エマオ館）や隣接の建物（住居）にも、内壁被害等があります。

- ・勝田教会：会堂内外の壁に亀裂が多数あります。その後の余震のたび亀裂が広まり、電灯等の設備にも影響が起きています。伝道師室のスチール製の本棚が破損したり、その他、絵の額縁や図書棚などが多数破損しました。
- ・勝田教会常陸大宮チャペル：鐘楼の右側の鐘が一方の軸が外れて落下し、鐘楼正面から見て右奥隅の外壁が、下部で30センチほどはがれ内部露出しました。その他、会堂全体に被害が起きています（扉、トイレの陶器製タンクふた、タンク、キッチン設備他）。内庭に面したガラスが全損しました。常陸大宮チャペルは修復工事を完了し、その費用は約33万円とのことです。
- ・日立教会：建物内壁の亀裂やタイル落下等の破損がありましたが、修復工事を終わりました。その費用は、約120万円とのことです。6月24日に松下設計士が再訪問し、結果を確認します。
- ・竜ヶ崎教会：会堂の被害はほとんどなく、牧師館は、木張りの外壁が一部暴れて浮き上がっていて、内壁クロスは破れは多数です。幼稚園用地に地割れがあり、擁壁がひび割れ、一か所は大きく割れているため、この個所は深刻です。また、幼稚園舎に被害があり、ホールと保育室の間に大きな隙間が発生しました。保育室の天井も被害を受けて外部デッキの被害、保育園舎の被害もあります。擁壁と幼稚園舎は大規模補修となると思われ、詳しい見積もりはこれからですが、すべてを直すとするとも5,000～6,000万円となるとのことです。
- ・つくばクリスチャンセンター：以前耐震診断を受け、要補強と指摘されていました。しかし、建物の構造に及ぶ被害は、今のところみられません。内壁、トイレ・キッチンタイル、ひび割れが目立ちます。宣教師館も外観や基礎には目立った損傷はありませんが、内壁に亀裂が多数です。

（群馬地区）

- ・泉町教会：会堂基礎の一部に割れや、外壁・内壁のひび割れが多数あります。会堂天井板がはがれ落ちる危険も感じます。
- ・桐生教会：歴史ある会堂は幸いにほとんど被害はありませんが、その改造に増築した部分には内壁外壁の亀裂が見られます。

*以上その他、安中教会、原市教会にも建物の被害が出ているとのことです。また、教区内の他の教会・伝道所にも被害が出ていることを聞いています。今後、近く、教区内のすべての教会・伝道所に被害の調査をお願いする予定です（その際には、信徒宅の被害もお伺いします）。合わせて、松下設計士の簡易診断の希望も伺いますので、尋ねがあった際にはよろしくご協力ください。

◎支援委員会からのお知らせ

震災発生以降「被災支援ニュース」を毎週発行してきましたが、6月14日開催の支援委員会で話し合わせ、今後は隔週での発行にすることとなりました。13号については6月19日に発行とし、14号はその2週間後の発行となります。

また、委員会としては、記事の内容について、発行（委員会）の意図と読み手のニードがマッチしているかどうか話し合っています。また、「新潟県中越地震」の被災支援の時のように、被災教会の牧師に原稿を依頼することも検討しています。そして、会計報告は月1回行おうと話合いました。経費・装丁については、多くの信徒に届く（例えば印刷して発送する）ことを工夫してもよいのではないかななどの意見も出ています。

支援ニュースの発行について、ご意見ご要望がありましたら、教区事務所までお知らせください。

いわき市ボランティアへのお誘い

小林祥人（教区社会部委員長・取手教会牧師）

第11号でいわき市のボランティアを呼びかけました。その後、東北教区の磐城教会が、ボランティアをするためにいわき市に入る方々に会堂を宿泊場所として提供するという決断をしました。市内のほぼ中心部にある磐城教会は、地域の被災の様子を見た教会員の方々、また被災地域に着任したばかりの上竹裕子牧師の中に、地域のために何かしたいという気持ち、またそのような活動を通して「地域に開かれた教会を目指したい」という思いが生まれてきたということでした。関東教区では、磐城教会のこの主体性に満ちた尊いお働きを応援し、また協力したいと考えます。参加の手順は次の通りです。

①各教会・伝道所の牧師先生の了承を得てください。

②交通費の補助を申請する場合は地区長にご連絡をお願いします。

③磐城教会・上竹裕子牧師と連絡を取ってください。（0246-21-2145 faxも同じ）

※上竹牧師には次の諸点をお伝えください。お名前（参加者全員）・電話番号・磐城教会までの移動手段（電車・バス・自家用車など）・活動日程（○月×日）・宿泊日程（×月△日・夜、など）・性別・年齢（未成年の方は保護者の同意が必要です）。

※※また教会側の準備の都合を考え、特に宿泊を伴う場合は、実際の現地入りする三日前までに磐城教会と連絡が取れるよう、ご協力をお願いします。

○磐城教会へのボランティアに関しては、一人、一日（日帰り）から交通費の補助が可能です（帰りは高速料金無料の手続きをボランティア・センターでします）。

○活動時間：月～金曜日の9時～16時（朝8時半に教会を出発し、ボランティア・センターに向かいます）土曜夕の宿泊については、要相談です。

○持参するもの： 寝袋・安全靴・革製手袋・マスク・ヘルメット

○食事について： 各自持参です。できるだけ現地の飲食店を利用してほしいという地域の願いがあります。

○分ち合い： 一日の活動終了後、磐城教会で分ち合いの時間が持たれます（17時ころ～）。ぜひご参加ください。

その他、いわき市の場合は放射能のことが問題としてありますが、これについては各自のご判断にゆだねるところとなりますので、その点をご理解ください。

以上は6月17日現在の情報をもとに作成しています。

ボランティアは当面、磐城教会を通して社会福祉協議会のボランティア・センターに入る活動で、現在は「片付けボランティア」が中心です。ただし「被災」現場の状況は日々変化していますので、磐城教会のボランティア協力としていわき市に行かれる方は、最新の情報を入手してください（活動内容・持ち物などに変化があるかもしれません）。関東教区では取手伝道所・小林（090-3529-5140 yocito@educet03.plala.or.jp）が現地の状況・ニーズなどを把握の上、情報の提供に努めます。その場でお答えできないことがあるかもしれませんが、確認のうえ、必ずお返事しますので、よろしく願いいたします。